

2024 年 9 月 4 日

研究休暇報告書

南山大学長

ロバート・キサラ 殿

所 属 国際教養学部国際教養学科

職氏名 教授 森泉 哲

受入研究機関：Department of Psychology, College of Arts and Sciences, University of Washington（アメリカ合衆国ワシントン州）

期間：2023 年 9 月 1 日 ～ 2024 年 8 月 31 日

目的：

- (1) 多文化社会における集団間関係と集団間イデオロギーの日米比較研究
- (2) グローバルシティズンシップの概念についての国際比較研究

ワシントン大学では、受け入れ教員の Yuichi Shoda 教授ならびに Cheryl Kaiser 教授のゼミに定期的に参加するとともに、毎週開催される社会心理学専攻のセミナーに参加し、他大学教員および院生の発表から最新の研究や研究慣習について学ぶことができた。また、2024 年 2 月には、フィリピンで開催されたアジア社会心理学会主催の集団間イデオロギーに関する研究集会に参加する機会を得、東南アジアを中心とした研究者ネットワークを広げることができた。

(1) 集団間関係と集団間イデオロギーの研究課題について、2024 年 2 月まで主に先行研究のレビューをした後、アメリカ社会での研究結果を参考にして、2024 年 3 月に日本の人口動態変化が外国人労働者に対する態度に及ぼす影響について日本人社会人約 1000 名に対してオンライン実験を実施した。さらに 2024 年 7 月には本研究の追加データを収集し分析を行った。結果の一部は、2024 年 9 月に開催される第 88 回日本心理学会で発表し、今後の日本社会のあり方について示唆を行う。また今後さらに別の視点からの結果を加え、学会や雑誌で公表予定である。このほか、南山大学人間関係研究センターでの教科書出版のプロジェクトにおいて、担当部分「集団（グループ）」について執筆を行い、集団の特徴についてこれまでの議論を整理した。さらに多文化社会の様々な様態については最近の社会的変容を反映させ、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』（改訂版）の担当章を書き改めた。両書とも 2024 年度中に出版される。

研究課題(2)グローバルシティズンシップに関する国際比較研究では、日本社会のダイバシティに関する政府提言書をテキスト分析した結果を南山大学人間関係研究センター紀要『人間関係研究』（2023 年 10 月発刊）で発表し、各分野の論点の違いを明らかにした。このほか、これまでポーランド科学アカデミーKatarzyna Hamer 教授が率いる世界 45 か国以上で実施しているグローバルシティズンシップについての国際比較プロジェクトにメンバーとして参加し、日本の調査結果を 2024 年 2 月にパーソナリティ・社会心理学会 (SPSP)で発表した。また英語教育産業における異文化コミュニケーションのあり方について、フィリピン人英語講師の日本人学生とのコミュニケーションを通じたアイデンティティの揺れ動きに関するインタビューデータを論文にまとめ、現在国際誌に投稿中である。

両研究課題に関して、フルブライト西ワシントン支部、シアトル日本人研究者の会で講演を行うなど、様々な研究者と意見交換する機会を得、日米社会の文化多様性について洞察を深めることもできた。

このような貴重な機会を頂いたことに感謝致します。